

2018年4月吉日

会員各位

第68回全国学術大会の自由論題・テーマ分科会募集のお知らせ

2018年日本現代中国学会全国学術大会を、10月20日(土)・21日(日)の両日、早稲田大学戸山キャンパスにおいて開催することになりました。次ページ以下の応募要項の通り、会員の皆様から自由論題の報告希望者およびテーマ分科会の開催希望者を募集いたします。奮ってご応募くださいますようお願い申し上げます。

今大会の共通論題は「**新世紀中国研究の挑戦-明治維新150年、改革開放40年**」です。

【趣旨】

21世紀を迎えて世界が激動し混迷を深める中、「知」のあり方も大きく変貌しています。その背景には、現在の世界をわたしたちは捉えることができるのか、という問いがあります。ナショナリズムやレイシズムの興隆、排他的な言説やヘイトスピーチの横行、ISの出現とテロ事件の多発、難民排斥・自国の利益を訴える右翼政党の台頭、貧富の差が広がり世界的な経済成長の鈍化……世界はなぜそうなってしまったのでしょうか。そしてどこへ行こうとしているのでしょうか。われわれは今、世界の認識の更新を迫られていると言ってよいでしょう。

振り返ってみれば、中国研究は19世紀半ばから、いわゆる「西洋の衝撃」とともに、大きな変貌を余儀なくされてきました。それはスチュアートホールという「西洋とその残余」という枠組みに東アジアがさらされる過程でもあり、日本と中国の位置関係が変容する過程でもありました。明治維新は、その大きな転換点の一つでした。その後、日本と中国あるいは世界情勢の変化によって、中国研究は転変を経ることになりました。日清戦争、辛亥革命と新文化運動、日中戦争、第二次世界大戦、文化大革命……。なかでも、文化大革命の終結と改革開放の始まりは、長い国交断絶の後、日本と中国の関係を大きく変えることになりました。そして現在、世界はまた大きく変貌し始め、中国研究は新たな問題に直面しています。

今日の世界の変貌を支えている重要な柱の一つはメディアの変貌です。ITやインターネットの発達世界各地を一瞬でつなぎ、情報のあり方を根本的に変化させつつあります。それにもなって研究の環境も大きく変化しています。古代から、人文知を支えてきた重要な柱の一つは文献学でした。文献は最も信頼できる情報であり、洋の東西を問わず、人類は文献を通して世界を理解し、他者の英知を認識してきました。明治以来、近現代中国研究についても、わたしたちはそうした伝統を受け継ぎつつ、新たな方法を開拓し、過去を乗り越える試みを繰り返して、膨大な資料・調査・研究を蓄積してきました。しかし、混迷を深める社会の激動は、文献学の基礎のうえに、そうして発展し巨

大な足跡を残してきた人文知が、はたして現在の世界を有効に捉え得ているか、われわれに問いかけています。

明治維新から 150 年、改革開放から 40 年、節目の年当たり、わたしたちの中国研究を振り返り、現在のアポリアに答える新たな研究を皆様とともに模索したいと考えています。会員の皆様の積極的なご参加を期待いたします。

応 募 要 項

自由論題の報告希望者およびテーマ分科会の開催希望者を以下のように募集します。事務的混乱を避けるために、やや煩瑣なご依頼事項を列挙しておりますことをお許しく下さい。

①自由論題での報告（一人の報告時間は25分程度）をご希望の会員は、氏名・所属・報告テーマおよび要旨（800字程度）を下記⑩の連絡先までお送りください。

なお、**大学院生**は指導教員、またはそれに相当する会員の推薦状（推薦者の氏名、所属、連絡先、推薦理由を記載。書式は自由）が必要です。報告者は会員でなければなりません（非会員の場合は下記⑤を参照）。

②テーマ分科会の開催（報告者2～3名、約2時間）をご希望の会員は、企画者の氏名と所属、企画テーマ、討論者の氏名と所属、司会者の氏名と所属を確定したうえで、下記⑩の申込先までお送りください。分科会は原則として会員で構成するものとし、変更はできません。確認のため、報告者、討論者、司会者が会員であるかどうかを明記してください。

③自由論題およびテーマ分科会の応募に関するご連絡は、すべて電子メールでお願いします。その場合、ウィルス感染防止のため、**添付ファイルは使用せず、メール本文にテキスト**で記載してください。なお、推薦状も原則としてメールで作成し、応募者はそれを転送するかたち（メール本文にペースト）としてください。どうかご理解とご協力をお願いいたします。

④締め切りは**6月15日（金）**とします。

⑤学会非会員の方で、自由論題での報告をご希望の方は、入会が応募の条件となります。入会申請をしていただいたうえで（日本現代中国学会のウェブサイト <http://www.genchugakkai.com/nyukai.html> を参照）、ご応募ください。入会手続きが報告発表までに完了しない場合でも、応募済みであれば発表は可能です。

⑥大会参加の旅費および宿泊費等は自己負担となります。

⑦報告希望者、テーマ分科会開催希望が多数に上る場合は、内容や会員歴などをふまえて調整させていただくことがありますので、あらかじめご承知おきください。

⑧応募をされた方には、メールにて実行委員会より応募受理の連絡をいたします。メールを送信した後、1週間以内に連絡がないときは、再度メールにてお問い合わせください。

⑨自由論題報告者は、大会10日前の10月10日（水）までに報告原稿またはレジюмеを実行委員会まで提出してください。なお、パワーポイント等の機器使用を希望される場合は申し込み時に必ず明記してください。

⑩応募申込先は、以下の実行委員会メールアドレスです。

■ waseda.gendai@gmail.com

⑪応募のメール送信をする際、件名を以下のようにしてください。

* 自由論題への応募の場合は「自由論題」

* テーマ分科会応募の場合は「テーマ分科会」

この機会に当学会未加入の優秀な大学院生の皆様にも、ぜひ入会と報告発表をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

日本現代中国学会第68回全国学術大会
実行委員会事務局（早稲田大学千野拓政研究室）